

Comments on Q6

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6	ご意見
W005	岸 秀彦	アジア	日本	企業	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 4. 生物化学フロー(環境汚染) 5. 水資源 8. ライフスタイル(消費性向)	些末な点で法整備がされるだけで、ライフスタイルを変えられるような大きな仕組みづくりについて、何の議論も進んでいない。 コロナ感染拡大初期のニューノーマルへの動きの中に若干期待をしたが、違う形で生活を変えただけで、結局は持続可能な社会への歩みという点では後退したように思う。
W027	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 5. 水資源	一般人の意識啓発も必要だが、意識の高い人を増やすのは限界がある。意識しないでも影響の少ない生活ができるよう、社会制度や企業活動への規制などの方に取り組む必要がある。
W033	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	6. 人口	日本の人口は地方から減少傾向が強くなっているため、地方のインフラの切り捨てが始まっている。少数の人口しかいない自治体にどのような支援やインフラの整備をしていくべきか考える時期に来ている。自然環境が身近にある地方にこそ生物の多様性や水資源の涵養などの重要な事項が託されていることに価値を見出すべきである。
W036	飯島 和毅	アジア	日本	大学・研究機関	50代	8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	国民は自分の楽な生き方、楽しい生き方しか頭にない。政策も、こうする必要があるというのを主張するばかり。双方が、お互いのニーズを考えながら、着地点を考える全体最適化が必要。
W038	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	4. 生物化学フロー(環境汚染)	職務柄、様々な化学物質による環境汚染、特に最近では抗生物質耐性や有機フッ素化合物(PFAS)の問題は深刻に感じる。
W044	佐藤 真久	アジア	日本	大学・研究機関	50代	8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	コロナ禍や大震災を経験し、複雑な問題群が浮き彫りになるとともに、ライフスタイル、幸福観に大きな変化が見られる。とりわけ、若年層は、さまざまな問題を統合的に捉え、自身のwell being とつなげる傾向がある。経済大国日本を経験したシニア層は、未だ経済重視の社会像を軸に日本を捉えており、また縦割りの発想が強い。このように、社会認識において、世代間のギャップが見られる。今後、世代内だけでなく、世代間のコミュニケーションを深め、実践と対話に基づく最適解の更新が求められている。
W047	筒井 隆司	アジア	日本	企業	60代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 6. 人口 7. 食糧	人口増加はあらゆる環境・社会問題の根源であり、貧困から脱出するため、労働力としての多産をどのように抑えるかは機微な問題であると同時に避けて通れない課題。日本は少子化で悩んでいるが2100年に向かって世界人口の無作為の増加には何らかの歯止めをかけないと、サステナビリティの取り組みだけでは追いつかない。
W058	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	6. 人口	昨今、国の人口が減って国が減びることを心配する人々が多いようですが、爆発的な人口増加が環境問題や社会問題の元凶になっていることをよく理解して、人口が減ってきていることを好機と考え、人々の意識・国の制度や政策を練り直すことが重要ではないかと考えている。
W062	福島 由美	アジア	日本	その他	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	人間を含めてあらゆるものの命を大切にすることが生活の根幹にないと、SDGsなども単なる経済成長の道具になっていく。経済成長は一定の限度までで結構で、あとは定常経済に移行し、地球環境にも無理なく、人も過度な競争に追いつまねず助け合って暮らすことができる仕組み、会計制度などを新しく作ってほしい。公共善エコノミーという考え方は筋が良いと思う。
W074	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球温暖化に起因する生物の生態系の変化、それからもたらされる生物資源の枯渇化がますます顕著になってきている。個人としては半閉鎖性海域である瀬戸内海及び瀬戸内地域の自然・生態や社会の営みに関心をもつが、これも地球環境の大きな変化と連動しているものと認識している。

Comments on Q6

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6	ご意見
W076	[-]	アジア	日本	その他	20代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性や気候変動など、人々の生活の中へ浸透させることもそうだが、そういった仕事があり、利益につながるということをもっと広めていく必要がある。サステナビリティの仕事人を増やす。
W082	森嶋 彰	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1. 気候変動 4. 生物化学フロー(環境汚染) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	社会的立場によって意識が異なり各々の立場に都合の良い行動が目立つ。
W085	矢内 秋生	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	すでに気候変動の時代＝気象や自然災害の多発する不安定な気候環境の時代に入っていると考えています。そのような状況で我が国が取るべき優先政策は「食料の安定確保」(特に自給率の向上)と自然災害発生時の「被災後の省庁横断的な有事体制」と考えます。これまでの気候変動等の啓発活動も「緩和」ではなく、すでに地球環境が変質してきていることによる気候変動の時代に対応する「適応」(生き残り策)に注力すべきと考えます。
W099	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 4. 生物化学フロー(環境汚染) 5. 水資源 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	グローバル社会において、個人の居住地域や現在世代における消費行動によって発生する環境負荷の負の遺産を、他国や社会的弱者、あるいは将来世代や地球環境へと押し付けている外部化の現状を解決するための取り組みなくして、SDGsの達成や環境問題の解決を実現することはできないだろう。
W108	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題を真剣に捉えるならば、人類はまさに「持続可能な社会」の構築を目指すべきであり、それは資源浪費型の資本主義と決別して新たな社会的価値観を確立し啓発すべきことです。「経済を回す」ことが社会に貢献するという思想はあくまで資本側の方便に過ぎず、経済よりも人間の内面的幸福度の方を社会的な判断材料に据えるべきだと思います。つまり地球環境問題やSDGsをベースにした倫理観を核とした社会形成を目指すべきだと思います。
W131	古瀬 浩史	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	持続可能性においてもっとも危機的な要素は、国際的な分断や対立だと考えます。
W139	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 3. 陸域系の変化(土地利用) 5. 水資源 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	今後しばらくの間は気候の温暖化が進む可能性が高いので、これによる様々な影響、局地的な大雨、洪水、海水温の上昇による水産物の変化、栽培作物の変化に対応する生産、技術の導入、高所への人口移動を含めた施策の積極的な採用などを早急に行う必要があるだろう。脱炭素で気候変動を抑制できるとは傲慢な考え方もかもしれない。
W148	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	戦争が世界のあちこちで起こり、また勃発のリスクも高まっている現在、環境問題は社会の関心において二の次になっているように感じる。多くの国、宗教、民族が持続可能に地球に存続するためには、文化的な視点をもっと重要視する必要があるのではないかと思う。
W153	三橋 規宏	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動	ウクライナ戦争、パレスチナ情勢など武力紛争の長期化がパリ協定やSDGsの遂行を著しく後退させていることを憂う。
W163	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	既に記しましたが、国連の機能低下で、世界の安全確保への有効な手段が著しく減少、戦争が原因となりSDGsと逆行する事項が多発しています。改めて世界平和を真剣に追求しなければならない時期に入ったように思います。

Comments on Q6

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6	ご意見
W172	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	いま人々は、日々の暮らしに追われて、環境問題の解決を意識することができていない。それを典型的な状況で表しているのは、発展途上国ではないかと思う。しかし、日本においても格差が広がる中で同様の面が現れており、残念ながらSDGsの達成はなかなか困難な状況にある。
W185	門上 希和夫	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 4. 生物化学フロー(環境汚染) 5. 水資源 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	経済の在り方を根本的に変えていかなければ、人類の活動が地球環境容量を大きく超えて様々な影響が無視できなくなるほど出てきそうである。
W196	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 6. 人口 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	特に日本は食料自給率が低いので、国際紛争等が発生した場合にすぐに大きな影響を受けると思われる。
W201	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6. 人口 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向)	現在、インドなどで小麦の輸出量が右肩上がりに増えている。小麦の生産の増加の要因に二酸化炭素濃度の上昇が如何にかかわっているかについて議論が全くなされていない。食料生産の増加が止まったり減少に転じることも、二酸化炭素排出量の増加による自然環境への影響を論じることと同様に重要である。
W206	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性)	子供の環境教育をもっと活性化すべき。リサイクル活動や環境保全活動の重要性を机上で教えるだけではなく、現地で体験することが肝要。
W211	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	5. 水資源 6. 人口 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境を変動させる数多くの要因のうち、人間が最も大きく影響を与えているのが人口と戦争を含めた政治・経済要因だと考えます。従って、人口のコントロール、過度な消費社会の是正、国家間の関係改善が地球環境の改善にとって最も重要だと考えます。
W213	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9. 社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	人類の正義や自己抑制をもとにした連帯の機運がなければ、気候変動や生物多様性といった地球環境の保護は難しい。
W228	道家 哲平	アジア	日本	NGO/NPO	40代	2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用)	地球規模課題の一つとして、海洋の問題が今後大きな課題になると考えていますが、項目が不在でした。海については、プラスチック含む汚染、海洋酸性化や海水温上昇など、システムレベルの変化があるのと同時に、公海など、どこの国にも属さないことから生じるガバナンスの不在等があり、今後注目すべきテーマと考えています。
W237	[-]	アジア	日本	その他	60代	1. 気候変動	近年の高温化は、極度の高温や激しい降雨の多発など、もはや止めることができない状態になっていると思われる水準である。 夏季の高温は、高齢者や乳幼児などに対しては既に耐えられない危険な水準になっている。 人類が存続していくためには、適応策を取り入れるとしても、急速に抜本的な温暖化対策を進めていく必要があると思われる。
W249	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	ロシアによるウクライナ侵略やイスラエルによるガザ侵攻は、自国外への武力攻撃に着手する際の国際的なハードルを低くしているようである。そのことは世界の不安定化を招き、国際協調・協力の枠組みにも悪影響を及ぼしており、気候変動対策や生物多様性保全策をはじめとする地球環境政策が停滞している。

Comments on Q6

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6	ご意見
W267	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動 6. 人口 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動・人口問題・行動変容は、密接に関係しており、個々の問題として解決しようとする意識だけでは、社会に大きな変革を起こすことは難しいと考えます。2050年に真により良い社会を構築するためには、経済活動と環境のバランスを取りながら、具体的なアクションを進めていくことが必要だと思います。
W278	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	6. 人口	日本ではすでに人口減少に転じており、人口増加や成長を前提にした環境問題の提起がすでに適切でないと感じます。
W291	[-]	アジア	日本	その他	60代	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	海外での戦争や物価高等、環境問題以外への注目が集まっており、環境問題への関心が薄れている。
W294	後藤 敏彦	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 6. 人口 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	「環境問題の解決には一人ひとりの意識や行動を変えていくことが必要であると言われていてます。」ということを否定するつもりはない。ただし、「一人一人の行動だけで環境問題が解決できるものではない」という厳然たる事実を覆い隠す隠れ蓑に使われるべきではない。人口が80億を超え、なお増加している中で、バイオマス資源の名を借りて土地利用の変化が激しく森林破壊は止まらない。この現代では、社会システムの大変革が必須だが、世界の協調は容易ではない。
W298	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	環境問題でもっとも重要なのは一般の人々の認識を変えるような教育が行き渡ることです。女性の社会的地位の問題もふくめガバナンス面でのさらなる努力が必要です。
W306	[-]	アジア	日本	その他	60代	1. 気候変動 4. 生物化学フロー(環境汚染)	新型コロナウイルス感染症は一定程度人類に対して脅威を与えたこともあり、環境汚染による地球環境への影響がもっとも懸念される。しかし、最近の気候変動も看過できないほどの影響を人類に与えている。こうした地球全体に対する対応を、各国が自国の利益にとらわれず、国連等の場で真剣に議論されることを願います。
W325	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動	気候変動は確実に進んでいると考える。その対策を考える時、身近な問題から行えばいいのに、どうすればいいのかわからない人が多いと感じる。
W327	森 朋子	アジア	日本	大学・研究機関	40代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	個人の良心に基づいた環境配慮行動を促進するだけでは、環境問題の対策はもはや間に合わないと考えている。環境配慮を意識しなくても、環境負荷が低く抑えられるような仕組みづくり、ルールづくりが急務である。具体的には再生可能エネルギーの大幅な導入、プラスチックを大幅に削減する物流の仕組み変革等が考えられる。
W332	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題の解決には、政治的な過程(法整備や国際的枠組みの構築)が重要と考えられます。そのために、政策決定者や行政の関係者が、今よりも自然を理解することが大事であると思います。一般人も含めて、理系教育をより広く行う必要があると考えています。
W342	[-]	アジア	日本	その他	60代	5. 水資源 6. 人口	地球環境への影響の出発点は、人口である。人口が増えればおのずと環境は悪化する。極端な話、人口がゼロになれば新たな環境問題は発生しない。ただし、これまで排出した環境汚染は残る。
W357	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	ただしい対策をとるためには、十分な科学リテラシーが必要である。しかし、不十分または偏った知識や経験に基づいた情報が、我々の身の回りにあふれており(テレビやSNSなど)、一般の方々は難しく聞こえるただしい説明より、むしろ、聞こえの良い間違った説明を信じてしまう傾向があるように感じる。そのため、一般の方々の科学リテラシーの向上が喫緊の課題であると考えられる。
W365	楠部 孝誠	アジア	日本	大学・研究機関	50代	8. ライフスタイル(消費性向)	技術革新だけでは環境問題は解決できず、ライフスタイルの変更が必要

Comments on Q6

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6	ご意見
W371	川村 研治	アジア	日本	NGO/NPO	60代	1. 気候変動 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	新技術への投資拡大よりも、食料やエネルギーの地産地消など、グローバル化の行きすぎを是正することによって多くの問題が改善する。また、ファストフードやファストファッションなどに代表される大量生産・大量消費・大量廃棄型ビジネスの規制、古いものを陳腐化し続けることによって新しい需要を生み出すIT産業などの規制が必要であると考え。規制に頼ることに問題があるならば、教育を通じたライフスタイル転換に注力すべきである。
W374	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 8. ライフスタイル(消費性向)	経済的なインセンティブ、すなわち環境税や補助金等を使って、一般市民を環境に優しいライフスタイルに誘導せざるを得ないのではないか。
W376	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	教育にかける予算は大幅に減少し、大学の教員も自分で外部資金をとらなければ研究できない。若者に希望をみせてやるができない社会になってしまってきているのが何より心配で、このような状況では個人の保身に走り、強調なり。地球環境問題の解決、などという個人には直接かかわらない(と考える)課題には立ち向かえない、立ち向かう力がわかない社会になってしまってきていると大いに危惧している。
W378	藤村 コノエ	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1. 気候変動	一人ひとりが過剰で無駄な消費を止め、それに代わる真の豊かさを探す力を育むこと。そして社会全体としても短期的経済発展ではない、皆が安心・安全で心豊かに暮らせる持続可能な社会への転換を目指すこと。そのためには、一部の政治家や企業・官僚による政策立案ではなく、市民・NPOとも連携した、多様で実効性ある政策づくりを可能にする社会にしていくことが大切だと思います。
W383	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動対策が急務である。個人の努力も重要であるが、産業界の施策の方が効果が大きいので、世界中の同じ業種、業界が手を組んで、枠組み、ルールを作り、目標に向けて実行することを期待したい。
W402	[-]	アジア	日本	企業	60代	8. ライフスタイル(消費性向)	脱炭素やネイチャーポジティブに向けた一般の人の意識は確実に変わってきていると思いますが、それに応えられるマーケットがまだ出ていないと思います。先進的な企業の行動を支えるための政策的な支援も不足しているのではないかと思います。
W403	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 5. 水資源 7. 食糧	地球環境問題の中でも食料や水などわたしたちの生活に直接かわる項目については、一般にも理解されやすくなってきたと考えられる。しかし、本来、それらのサービスを支えている生物多様性になるとそこまでの危機意識を持つことができない人が多いと思われる。
003	岩田 助和	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動	災害と原子力との関係をきちっと整理しなければ我が国の気候変動に対するスタンスは決定しない。
009	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性	もはや手遅れではないかと悲観的になっている。対策どころか戦争で先が見通せなくなりました。
011	[-]	アジア	日本	その他	40代	1. 気候変動	EV化が気候変動対策という妄想からは早く脱した方が良いと思っています。
020	[-]	アジア	日本	中央政府	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性 3. 陸域系の変化 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境の変化から紛争が増え、さらに環境が悪化することを懸念します。
026	勝田 悟	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動	国内外地域によって被害に格差があり、意識が異なる。特に身近に被害がない場合、意識が非常に低い。法令遵守、自主的行動など公平に実施、維持していくのは困難である。

Comments on Q6

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6	ご意見
031	[-]	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	6.人口	少子高齢化による人口減少を止める。出生率を上げるための企業・国・社会努力。特に職場に於ける女性への支援。
036	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	7.食糧	戦争は最大の環境破壊であり、食料供給に深刻な影響をもたらしている。ロシアはウクライナ侵略を即刻停止し、全ての軍隊を撤退させるべきである。
045	[-]	アジア	日本	その他	50代	1.気候変動	2年間、温暖化対策の担当課長として様々な事業に取り組み、それぞれの事業でできることに最大限取り組んだが、対策が進んだと実感できるものはなかった。個々の事業の効果は温暖化の要因の規模と比べると、大変に小さいものであり、実感は得られずとも「続けていくこと」「より多くの客体で取り組むこと」の重要性を感じている。
049	[-]	アジア	日本	企業	70代以上	6.人口	全ての問題、課題の出発点は人口である。ここにメスを入れなければ、問題の先送りをしているだけ。
056	郡 篤 孝	アジア	日本	その他	70代以上	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	個人の行動変容から制度システムの変更へ。すなわち、行動変容を促すようにシステム制度設計を再デザイン化すべきです。